

大学の世界展開力強化事業 構想概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

毎年年度末に医学・保健学分野NPO等の専門家及び高等教育における専門家等による外部評価を実施。成績管理については、コンソーシアム運営委員会において7大学で相互チェックを行う等、透明性、客観性の高い厳密な成績管理等を行う。

○ 相手大学(相手国)のニーズを踏まえた大学間交流の展開

相手大学は全て公的な認可を受けているトップ大学である。各大学にサポートオフィスを設置し、プログラム実施教員・英語が堪能な教務担当事務員による学生の履修・研究指導を行う。

〈インドネシアの研究風景〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈英語によるディスカッション〉



○ 多層的・柔軟的・発展的な交流プログラム

日本の大学院生を対象とした海外相手大学でのセミナー、日本・ASEAN諸国の学生を対象とした学部課程における4週間の病院実習、修士課程及び博士課程における3か月又は6か月間の研究プログラム、さらにASEAN諸国学生を対象とした博士課程学位取得プログラム等を提供する。また、国内外の研究所等での演習、インターンシップの機会を提供し、チャレンジ精神と英語に寄るコミュニケーション能力を養い、教育研究機関や保健・医療機関、民間企業が必要とするグローバルな人材の育成につなげる。

○ 全学的推進体制・大学間連携

神戸大学国際コミュニケーションセンターにおいて「医学・保健学実践学術英語プログラム」を調査・開発中。医学・保健学の50年間にわたるASEAN諸国との交流実績を基盤とし、ASEAN連携5大学・国内連携2機関から合意書等を取得済み。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は、インドネシア大学に6名、アイルランガ大学及びマヒドン大学に各1名を派遣する。平成25年度はマヒドン大学に11名、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学及びチェンマイ大学に各1~4名を派遣する。平成26~28年度には、各大学に毎年1~8名を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は、インドネシア大学、アイルランガ大学およびマヒドン大学から各1名の受入れを行う。平成25~28年度には、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学、マヒドン大学およびチェンマイ大学から、毎年2~6名の受入れを行う。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	8	21	22	26	26
学生の受入	3	18	18	20	20

注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 履修面・学習面・生活面にわたるサポート

派遣学生については、派遣前には英語によるプレゼンテーション、ディスカッション等を行うとともに、派遣中はコーディネーターが現地へ同行し、現地の学習環境や生活環境に適應できるように指導する。留学生受入れに関しては、各大学にサポートオフィスを設置し、留学生受入れのためのサポートを実施する。宿舎については、大学所有の宿舎を活用するとともに、比較的安価で安心な民間の宿舎を確保する。

○ 大学以外の機関や産業界との連携について

本プログラム参加学生全てを対象として、将来的なキャリアパスを視野に入れたインターンシップを行う。インターンシップ先として、WHO神戸センターや兵庫県立健康科学研究所及び国立感染症研究所等を計画している。また、兵庫県以外の地方衛生研究所、医学・保健学分野のNPO等との連携を拡大する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 国内外への情報提供の方法・体制について

日本語および英語のホームページ、シンポジウムの開催、パンフレットや年次報告書による情報公開に加えて、SNS上に本プログラムのページを開設し、運営する。また、オンラインNewsletterを学生主導で作成し、学生が構想から発行までを担い、成果発表の場とする。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

平成24年度に、コンソーシアム運営委員会・外部評価委員会を立ち上げた。今後、外部評価委員会に本プログラムの成果等について評価を受けると共に、成績管理等について、コンソーシアム運営委員会に逐次報告し、検証を行う。

○ 相手大学(相手国)のニーズを踏まえた大学間交流の展開

平成24年度に各大学にサポートオフィスを設置するとともに、採用したプログラム実施教員・事務職員により、連携大学・機関のカリキュラムや事務手続きの円滑化や調査を行った。今後もサポートオフィスを中心に、交流を展開していく。

(留学生対象の日本語・日本文化授業)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(大学院学生セミナープログラム)



○ 多層的・柔軟的・発展的な交流プログラム

平成24年度は、日本の大学院生を対象とした海外相手大学でのセミナー、修士課程及び博士課程における3か月の研究プログラムを実施し、大きな成果を挙げることができた。今後はこれに加え、学部課程における4週間の病院実習、大学院学生の6か月間の研究プログラム、さらにASEAN諸国学生を対象とした博士課程学位取得プログラム等を提供する。また、国内外の研究所等での演習、インターンシップの機会を提供し、教育研究機関や保健・医療機関、民間企業が必要とするグローバルな人材の育成につなげる。

○ 全学的推進体制・大学間連携

神戸大学国際コミュニケーションセンターにおいて「医学・保健学実践学術英語プログラム」を調査・開発中。医学・保健学の50年間にわたるASEAN諸国との交流実績を基盤とし、ASEAN連携5大学・国内連携2機関から合意書等を取得済み。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は、インドネシア大学に10名、マヒドン大学に1名を派遣した。平成25年度はマヒドン大学に13名、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学及びチェンマイ大学に各1~8名を派遣する。平成26~28年度には、各大学に毎年1~10名を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は、インドネシア大学、アイルランガ大学およびマヒドン大学から各1名の受入れを行った。平成25~28年度には、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学、マヒドン大学およびチェンマイ大学から、毎年2~8名の受入れを行う。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	21	22	26	26
学生の受入	3	18	18	20	20

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 履修面・学習面・生活面にわたるサポート

平成24年度は、派遣学生について、派遣前に英語によるプレゼンテーション等を実施するとともに、派遣中には教員・事務職員を派遣し、現地の学習環境や生活環境について調査を行った。留学生受入れに関しては、研究活動と共に、日本語・日本文化に関する授業も行った。また、宿舎については、比較的安価で安心な民間の宿舎を確保できた。今後においても、より充実した履修面・学習面・生活面にわたるサポートを行っていく。

○ 大学以外の機関や産業界との連携について

平成24年度は、WHO神戸センターより講師を招き、セミナーを開催した。今後は、セミナーに加えて、将来的なキャリアパスを視野に入れたインターンシップを行う。インターンシップ先として、WHO神戸センターや兵庫県立健康科学研究所及び国立感染症研究所等を計画している。また、兵庫県以外の地方衛生研究所、医学・保健学分野のNPO等との連携を拡大する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 国内外への情報提供の方法・体制について

平成24年度は、日本語および英語のホームページ、シンポジウムの開催、パンフレットによる情報公開に加えて、SNS上に本プログラムのページを開設した。今後は、オンラインNewsletterを学生主導で作成し、学生が構想から発行までを担い、成果発表の場とする。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

外部評価委員による事業についての客観的な評価を受け、反映させることで事業の改善に取り組んでいる。コンソーシアム運営委員会により、派遣・受入済み学生の遠隔授業システムを用いた公開発表会およびプログラム反省会を行い、事業に反映させている。臨床実習への留学生受入カリキュラムを整備し、公開に向けて準備を進めている。

○ 博士課程におけるダブルディグリープログラム実施に向けた取り組み

博士課程におけるダブルディグリープログラム実施について、コンソーシアムメンバーのガジャマダ大学医学部との間で合意を得ている。現在は、細部について実施に向けて協議中である。マヒドン大学からも同様の提案があるので、検討中である。

(派遣前教育・研修会)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

○ 交流プログラムについて

コンソーシアム各大学の施設において、学部学生の4週間の病院実習、大学院生の3~6ヶ月の研究プログラムによる派遣・受入を行なった。博士学位取得プログラムの学生を受入れた。短期プログラムに参加した留学生が本学での博士学位所得を希望するように指導している。感染症・遺伝病・再生医療などのトピックについて、日本人及び外国人による講義・シンポジウムを、双方向遠隔授業システムにより開催した。

○ 今後の開始に向けた準備状況

コンソーシアム以外の大学との間で、学生の派遣・受入に向け、交流協定の締結を進めている(パジャジャラン大学、ディボネゴロ大学、フィリピン大学マニラ校、チッタゴン医科大学など)。

(双方向遠隔授業システムによるシンポジウム)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成25年度は、マヒドン大学に8名、アイルランガ大学に9名、ガジャマダ大学に2名、チェンマイ大学に3名を派遣した。平成26~28年度には、コンソーシアム各大学に毎年1~10名の派遣、及びコンソーシアム以外の大学への派遣を計画している。

○ 外国人留学生の受入れ

平成25年度は、コンソーシアム各大学から1~8名の学生の受入を行なった。平成26~28年度も、コンソーシアム各大学、毎年2~8名の受入れを計画している。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	22	26	26
学生の受入	3	23	18	20	20

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注) H24・H25は実績、H26以降は計画

○ 日本人学生の派遣を促進するための環境整備

ホームページ上での派遣先となる大学の情報提供や特命教員による派遣前教育・研修会を行うことで、充実した研修を行なうことができるようにしている。また、職員が研修予定先を訪問し、視察や現地教員との情報交換を行ない、得られた情報についても派遣予定の学生に情報提供を行なっている。

○ 留学生の受入を促進するための環境整備

双方向遠隔授業システムによる受入候補学生の事前インタビューにより、学生への情報提供を行なっている。受入期間中は、日本人学生チューターを採用し、留学生の学業・生活面のサポート体制を整えた。派遣予定の学生が当該国からの受入学生をサポートするようにしている。日本語・日本文化クラスを開講し、習熟度により3クラスに分けて教育を行っている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 情報提供サイトの運営

ホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/index.html>)にできる限り多くの情報を掲載することにより、教育内容の可視化・成果の普及を行なっている。また、派遣・受入学生の体験レポートなどは、日本語と英語で同時に掲載し、広範囲に情報を発信するように努めている。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

①外部評価委員会: 外部評価委員による事業についての客観的な評価を受け、その評価をもとに事業の改善に取り組んでいる。

②実習評価制度の確立: 同一のテンプレートを元とし、コンソーシアム各大学の単位認定・評価基準を満たす評価書の作成をおこなった。

○ ダブルディグリープログラム実施に向けた協議

神戸大学医学研究科とガジャマダ大学医学部でダブルディグリープログラム実施に向けた協議を進めている。同様に神戸大学医学研究科とマヒドン大学シリラート病院医学部でダブルディグリープログラム実施に向けた協議を進めている。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈派遣予定学生と受入学生の交流会〉



〈派遣学生の病院実習〉



○ 派遣・受入プログラム

コンソーシアム各大学で、病院・地域実習や研究プログラム、学位取得プログラムによる学生の派遣・受入をおこなった。プログラム修了学生の体験談を本プログラムホームページに掲載し、成果の普及に努めている。

○ セミナープログラム・シンポジウム

日本・ASEAN諸国で関心の高い医療保健分野でのトピックスに関する学生シンポジウム、プログラム参加学生による成果発表会を、双方向遠隔授業システムを利用しコンソーシアム大学間で開催した。また、ガジャマダ大学で開催された国際セミナーでは派遣学生が企画の段階から参画し、研究発表とともに意見交換をおこなった。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	28	26	26
学生の受入	3	23	40	20	20

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は計11名、平成25年度は計24名、平成26年度は計28名の派遣をおこなった。派遣人数は年々増加しており、派遣プログラムは順調に実施されている。平成27・28年度は、コンソーシアム各大学に毎年1~10名の派遣を予定している。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は計3名、平成25年度は計23名、平成26年度は計40名の受入をおこなった。派遣プログラムと同様に、受入人数は年々増加しており、受入プログラムは順調に実施されている。平成27・28年度は、派遣元の希望を踏まえ各大学から毎年2~15名の受入を予定している。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生と留学生の相互支援関係の構築に向けた取組み

受入学生の学業や日常生活の世話をする学生チューターの雇用、国際交流サークルの立ち上げと交流会の開催により学生間交流の活性化を図っている。この取組を通じて、学生間による自発的な相互支援関係が構築されつつある。

○ Elective Programの開設

神戸大学医学部医学科では、継続した学生受入をおこなうため、Elective Programのホームページを開設し、参加学生の募集をおこなっている。また、カリキュラムを明確にするためシラバスを作成し公開している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開・成果の普及

○ ホームページ、双方向遠隔授業システムを利用した情報の公開成果の普及

本プログラムの日本語及び英語のホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/>)を開設し、プログラム概要や参加者の体験談等の掲載を随時おこない、その広報に努めている。また、双方向遠隔授業システム等を利用することで国内外の大学を結び学生による成果発表会を実施し、学内外の学生や教職員への成果の普及に努めている。

〈プログラム参加学生による成果発表会〉



大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジヤマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ダブルディグリープログラム実施に向けた協議

神戸大学医学研究科とマヒドン大学シリラート病院医学部でダブルディグリープログラム実施に向けたMOUを締結した。同様に、ガジヤマダ大学医学部とダブルディグリープログラム実施に向けたMOUの締結に関して合意に至っている。

○ 外部評価委員会、中間評価

平成26年度に実施した外部評価委員会や中間評価による評価を受け、平成27年度以降の事業計画に反映し、継続した学生交流及び人材育成ができるよう努めている。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈訪問診療への同行〉



○ 病院実習プログラム

学部学生を対象とした、附属病院や地域の医療施設でおこなう病院実習プログラムを実施した。

○ 研究プログラム

大学院生を対象とした、大学の研究施設や保健センターでおこなう研究プログラムを実施した。

○ 学位取得プログラム

ASEAN諸国学生を対象とした、博士学位取得プログラムを実施した。H27年度は、学生1名が博士(保健学)を取得した。

〈病院実習プログラム修了式〉



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は計11名、平成25年度は計24名、平成26年度は計28名、平成27年度は計27名の派遣をおこなった。平成28年度は、各大学に1~7名の学生派遣を予定している。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は計3名、平成25年度は計23名、平成26年度は計40名、平成27年度は計59名の学生受入をおこなった。平成28年度は、各大学から1~7名の学生受入を予定している。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	28	27	26
学生の受入	3	23	40	59	20

注)H24-H27は実績、H28は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ Elective Programの開設

Elective Programのホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/elepro/>)を開設し参加学生の募集をおこなっている。ホームページ上では、応募要件や各臨床科ごとのシラバスについて公開している。

○ 留学生チューター

受入学生の学業や日常生活の補助をおこなう留学生チューターとして日本人学生を雇用した。この雇用により、派遣学生以外の学生についても海外学生と交流を持つことができる機会を提供することができた。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ ホームページによる成果の普及

得られた成果や参加学生のレポートを本プログラムの日本語版及び英語版のホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/>)に掲載した。

○ セミナーによる成果の普及

テレカンファレンスセミナー(H28年2月)や国際セミナー(H28年3月;インドネシア)を開催し、成果を議論・発信した。

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ダブルディグリープログラム実施に向けた協議

マヒドン大学シリラート病院医学部(タイ)に引き続き、神戸大学大学院医学研究科とガジャマダ大学医学部(インドネシア)の間でダブルディグリープログラム実施に向けたMOUを締結している。また、パジャジャラン大学医学部(インドネシア)とダブルディグリープログラム実施に向けたMOUの締結に関する協議を進めている。

○ 学生交流の継続に向けた取り組み

平成27年度末に外部評価委員会から本事業に対する評価を受け、本事業の終了後もこれまでと同様のプログラムを展開するための取り組みを行っている。具体的には、大学毎の受入人数の見直しや大学毎に交渉を行う担当教員を決め、本事業終了後も教育の質の維持や教職員の負担を考慮した上で、継続した学生交流ができるよう制度の見直しを図っている。

(ディベートクラスでの学生発表の様子)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(現地の健康教室への参加・見学)

○ 病院実習プログラム(4週間)

主に医学部最終学年の学生を対象に、附属病院や地域の医療施設で行われる病院実習プログラムを実施した。2つの診療科を2週間ずつローテーションする研修を基本的なスケジュールとしている。

○ 研究プログラム(2・3ヵ月)

大学院生を対象に、各学生のそれぞれの専攻に応じた研究や調査を行う研究プログラムを、派遣先大学の研究施設や保健センター等の関係施設で実施した。

○ 学位取得プログラム

コンソーシアムを構成する大学に所属する学生を神戸大学大学院に受入れ、博士号取得を目指す学位取得プログラムを実施した。H27年度末に1名が博士(保健学)を取得した。また、H29年度に2名、H30年度に1名が博士(医学)取得予定である。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は11名、平成25年度は24名、平成26年度は28名、平成27年度は27名、平成28年度は39名の派遣を行った。平成29年度以降も、個別計画実習として各大学に40名程度を派遣する予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	28	27	39
学生の受入	3	23	38	55	48

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は3名、平成25年度は23名、平成26年度は40名、平成27年度は59名、平成28年度は51名の学生受入を行った。平成29年度以降もElective Program (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/elepro/>)参加学生として、各大学から原則3名の受入予定としている。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 留学生バディ制度による学生間交流の促進

日本人学生を留学生の学業や日常生活の補助を行う学生として雇用する「留学生バディ(旧称:留学生チューター)」制度を採用した。この制度により、学生間交流を促進することができるとともに、派遣学生以外の学生も海外の医療制度等を知る機会や英語コミュニケーション能力を向上させるための良い機会となった。さらに、留学生バディを行ったことをきっかけに海外派遣を希望するようになった学生もいる。

○ ディベートクラスの開講による医学に関する英会話能力の向上

日本人学生や受入学生が参加する医学に関するテーマで議論を交わす「ディベートクラス」を平成28年度に開講した。参加人数は延べ235人(平成28年度)にのぼり、クラスへの参加をきっかけに留学に興味を示すようになった学生もいる。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ ホームページやセミナーによる成果の普及

本プログラムの日本語及び英語のホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/>)を作成し、イベント情報や学生レポート等の情報を発信した。また、保健学研究科で開催された成果報告会(H28年12月)等でも、得られた成果を議論・発表した。